

## II 子どもの将来像

- 子どもには「これからの社会」と「勤労観」、「自分のなりたい人間像」、大人には「な  
ってほしい人間像」について聞くことで、描いている子どもの将来像について把握する  
こととした。
- 調査の結果、これからの世の中について、小学生は「今より良くなっている」、中高生  
と特別支援学校児童・生徒は「わからない」と思っている割合が最も高くなっている。  
回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成 17 年度調査結果では、小学  
生は同じく「今より良くなっている」(平成 25 年度調査:52.1%、平成 17 年度調査:35.9%)  
であるのに対し、中高生は「今より悪くなっている」となっている。特別支援学校児童・  
生徒は同じく「わからない」(平成 25 年度調査:46.8%、平成 17 年度調査:41.5%)とな  
っている。
- また、小中高生は共に「たくさんの友だちや仲間がいる人」、「自分らしさをもってい  
る人」、「人を思いやる心をもっている人」になりたいと思っている。特別支援学校児童・  
生徒は「人を思いやるやさしい人」、「自分らしさをもっている人」、「人の役に立てる人」  
になりたいと思っている。
- 働くことについて、回答の割合が高いのは、小学生は「働いて自分の夢をかなえたい」、  
「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」の順に、  
中高生は「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(高校生は「働いて生きがいや、やり  
がいを得たい」、「働いて自分の希望をかなえたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」  
の順になっている。特別支援学校児童・生徒は「まだわからない」、「働いて充実感や生  
きる喜びを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」の順になっている。
- こうした中で、なってほしい大人像について、回答の割合が高いのは、教職員は「人  
を思いやる心をもっている」、「困難を乗り越えることができる」、「社会のルールやマナ  
ーを守る」の順になっている。  
保護者は「困難を乗り越えることができる」、「人を思いやる心をもっている」、「健康  
なからだや体力を備えている」の順になっている。  
学校評議員と一般県民は「人を思いやる心をもっている」、「社会のルールやマナーを  
守る」、「困難を乗り越えることができる」の順になっている。回答の割合が最も高い項  
目を前回調査と比較すると、平成 17 年度調査結果では、一般県民は「社会のルールやマ  
ナーを守る」となっている。

## II-1 これからの世の中

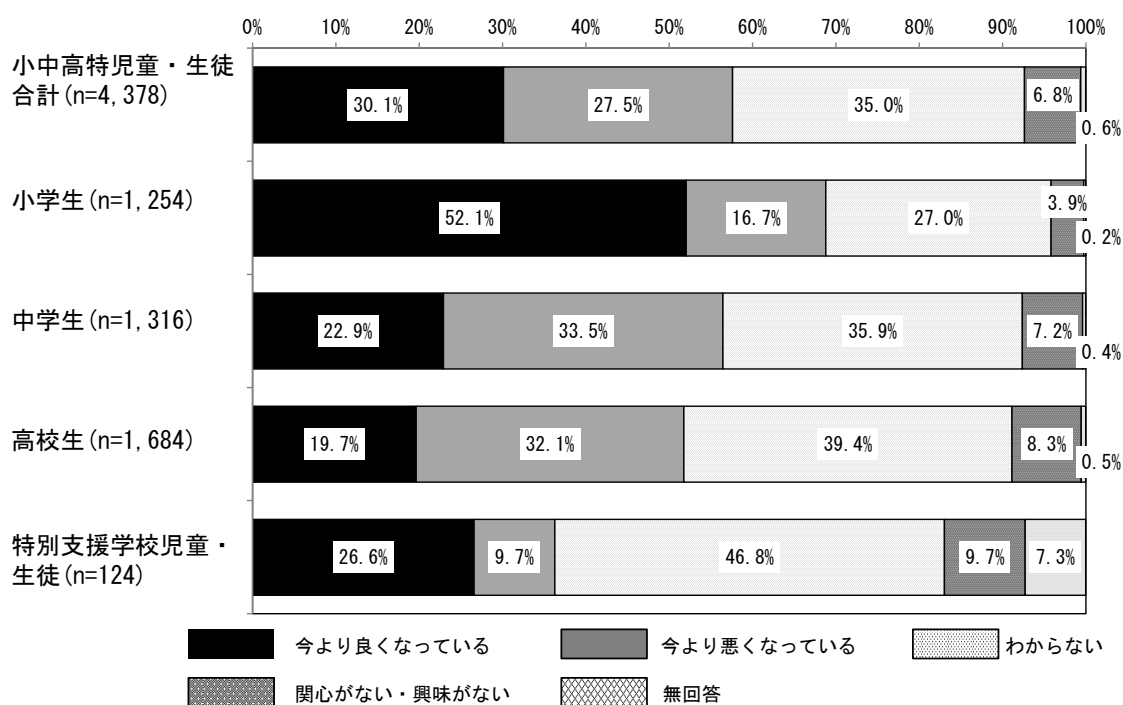
「自分が大人になった頃の世の中はどのようになっているか」を子どもに聞いたところ、小学生では「今より良くなっている」との回答が、中高生と特別支援学校児童・生徒では「わからない」との回答が最も割合が高かった。

また、最も回答の割合の高かった項目について、平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査でも「今より良くなっている」（平成25年度調査：52.1%、平成17年度調査：35.9%）であるのに対し、中高生の回答は平成25年度調査では「わからない」（中学生：35.9%、高校生：39.4%）、平成17年度調査では「今より悪くなっている」（中学生：49.3%、高校生：48.3%）であった。特別支援学校児童・生徒の回答はいずれの調査でも「わからない」の割合が最も高く、平成25年度調査は46.8%、平成17年度調査は41.5%であった。

『これからの世の中』について児童・生徒に聞いたところ、「今より良くなっている」と回答している割合は、小学生では52.1%、中学生では22.9%、高校生19.7%では、特別支援学校児童・生徒では26.6%であった。

また、最も割合の高かった回答は、小学生では「今より良くなっている」（52.1%）であり、その他の児童・生徒では「わからない」（中学生：35.9%、高校生：39.4%、特別支援学校児童・生徒：46.8%）であった。（図II-1 参照）

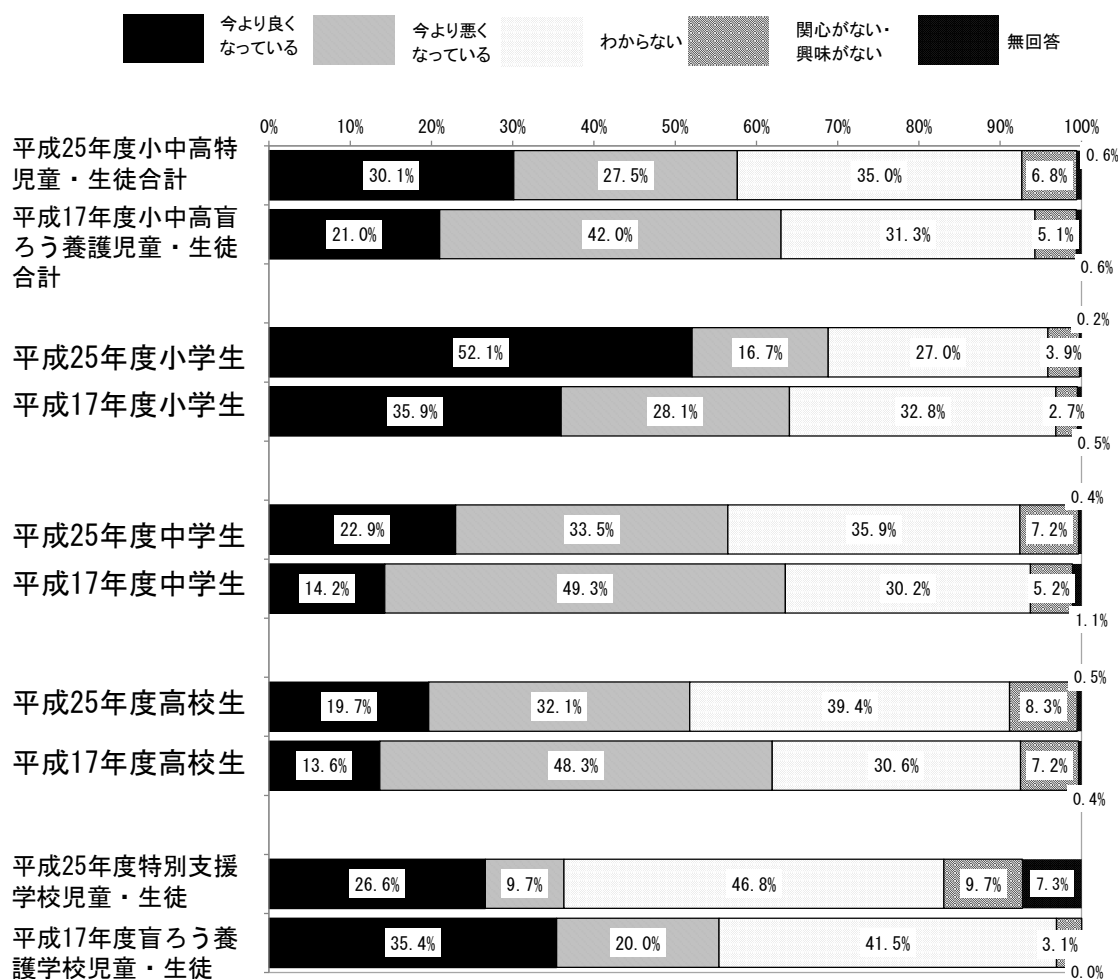
図 II-1 これからの世の中(児童・生徒)



児童・生徒が『これからの世の中』を「今より良くなっている」と回答している割合について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では 52.1%であり、平成 17 年度調査では 35.9%であった。同じく中学生の回答は平成 25 年度調査では 22.9%であり、平成 17 年度調査では 14.2%、高校生の回答は平成 25 年度調査では 19.7%であり、平成 17 年度調査では 13.6%、特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では 26.6%であり、平成 17 年度調査では 35.4%であった。

また、最も回答の割合の高かった項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査でも「今より良くなっている」（平成 25 年度調査：52.1%、平成 17 年度調査：35.9%）であるのに対し、中高生の回答は平成 25 年度調査では「わからない」（中学生：35.9%、高校生：39.4%）、平成 17 年度調査では「今より悪くなっている」（中学生：49.3%、高校生：48.3%）であった。特別支援学校児童・生徒の回答はいずれの調査でも「わからない」の割合が最も高く、平成 25 年度調査は 46.8%、平成 17 年度調査は 41.5%であった。（図 II-2 参照）

図 II-2 これからの世の中(児童・生徒)



小中高特児童・生徒合計	平成 25 年度 n=4, 378、平成 17 年度 n=4, 541
小学生	平成 25 年度 n=1, 254 平成 17 年度 n=1, 394
中学生	平成 25 年度 n=1, 316 平成 17 年度 n=1, 446
高校生	平成 25 年度 n=1, 684 平成 17 年度 n=1, 636
特別支援学校児童・生徒 (盲ろう養護児童・生徒)	平成 25 年度 n=124 平成 17 年度 n=65

## II-2 どのような大人になりたいか

『どのような大人になりたいか』について児童・生徒に聞いたところ、小学生では「たくさんの友だちや仲間がいる人」、「自分らしさをもっている人」、「人を思いやる心をもっている人」の順に回答の割合が高く、中高生では、「自分らしさをもっている人」、「人を思いやる心をもっている人」、「たくさんの友だちや仲間がいる人」、特別支援学校児童・生徒では「人を思いやるやさしい人」、「自分らしさをもっている人」、「人の役に立てる人」の順に回答の割合が高かった。

また、回答の割合の最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査においても「たくさんの友だちや仲間がいる人」であり、平成25年度調査では46.6%、平成17年度調査では49.1%であった。中学生の回答は平成25年度調査では「自分らしさをもっている人」(52.7%)であり、平成17年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(52.5%)であった。高校生の回答はいずれの調査においても「自分らしさをもっている人」が最も回答の割合が高く、平成25年度調査では58.1%、平成17年度調査では58.4%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成25年度調査では「人を思いやるやさしい人」(50.0%)であり、平成17年度調査では「自分らしさをもっている人」(53.8%)であった。

『どのような大人になりたいか』について児童・生徒に聞いたところ、小学生では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(46.6%)、「自分らしさをもっている人」(39.8%)、「人を思いやる心をもっている人」(38.8%)の順に回答の割合が高く、中高生では、「自分らしさをもっている人」(中学生：52.7%、高校生：58.1%)、「人を思いやる心をもっている人」(中学生：46.0%、高校生：43.7%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(中学生：45.8%、高校生：38.3%)の順であった。また、特別支援学校児童・生徒では「人を思いやるやさしい人」(50.0%)、「自分らしさをもっている人」(35.5%)、「人の役に立てる人」(30.6%)の順に回答の割合が高かった。(表 II-1、図 II-3,4 参照)

表 II-1 どのような大人になりたいか(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 児童・生徒
1位	たくさんの友だちや仲間がいる人 46.6%	自分らしさをもっている人 52.7%	自分らしさをもっている人 58.1%	人を思いやるやさしい人 50.0%
2位	自分らしさをもっている人 39.8%	人を思いやる心をもっている人 46.0%	人を思いやる心をもっている人 43.7%	自分らしさをもっている人 35.5%
3位	人を思いやる心をもっている人 38.8%	たくさんの友だちや仲間がいる人 45.8%	たくさんの友だちや仲間がいる人 38.3%	人の役に立てる人 30.6%
4位	いつも努力をしている人 38.4%	困難を乗り越えられる人 33.5%	困難を乗り越えられる人 31.2%	いつも努力をしている人 29.8%
5位	人の役に立てる人 35.9%	社会のルールやマナーを守る人 32.2%	常に努力を惜しまない人 28.6%	たくさんの友だちがいる人 25.0%

図 II-3 どのような大人になりたいか(小中高生)

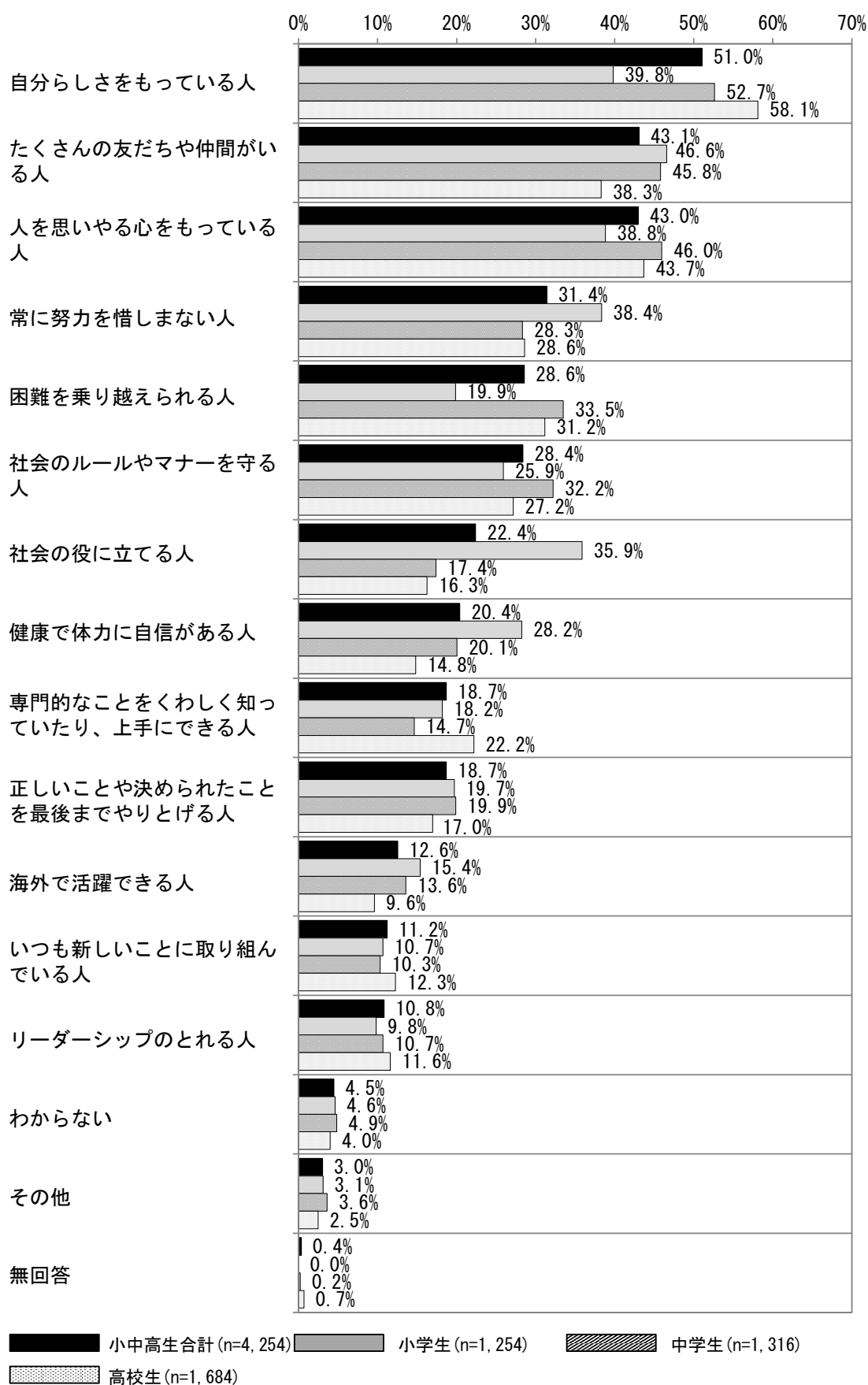
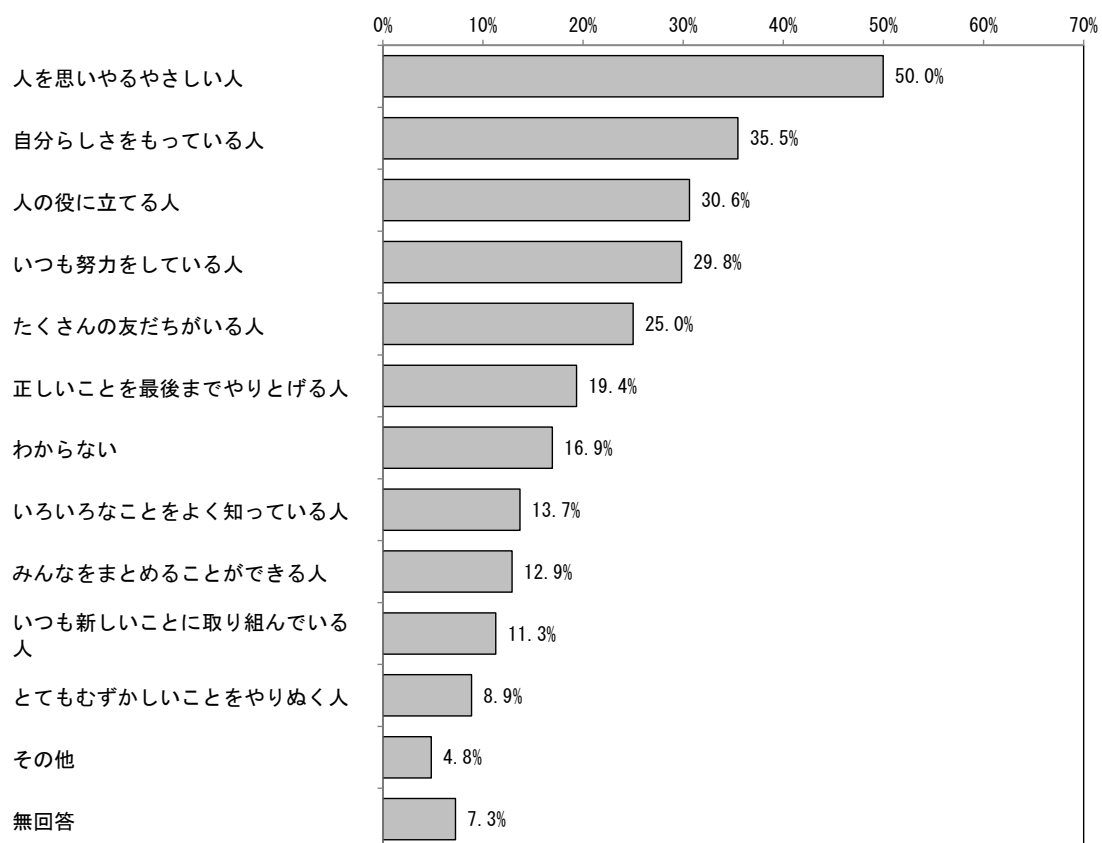


図 II-4 どのような大人になりたいか(特別支援学校児童・生徒 n=124)



回答の割合の高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(46.6%)、「自分らしさをもっている人」(39.8%)、「人を思いやる心をもっている人」(38.8%)であり、平成 17 年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(49.1%)、「自分らしさをもっている人」(37.9%)、「人を思いやる心をもっている人」(37.3%)であった。

中学生の回答は平成 25 年度調査では「自分らしさをもっている人」(52.7%)、「人を思いやる心をもっている人」(46.0%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(45.8%)であり、平成 17 年度調査では「たくさんの友だちや仲間がいる人」(52.5%)、「自分らしさをもっている人」(50.6%)、「人を思いやる心をもっている人」(44.5%)であった。

高校生の回答は平成 25 年度調査では「自分らしさをもっている人」(58.1%)、「人を思いやる心をもっている人」(43.7%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(38.3%)であり、平成 17 年度調査では「自分らしさをもっている人」(58.4%)、「たくさんの友だちや仲間がいる人」(51.4%)、「人を思いやる心をもっている人」(51.0%)であった。

特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやるやさしい人」(50.0%)、「自分らしさをもっている人」(35.5%)、「人の役に立てる人」(30.6%)であり、平成 17 年度調査では「自分らしさをもっている人」(53.8%)、「人を思いやるやさしい人」(52.3%)、「正しいことを最後までやりとげる人」(32.3%)であった。(図 II-5~9 参照)

図 II-5 どのような大人になりたいか(小中高生合計)

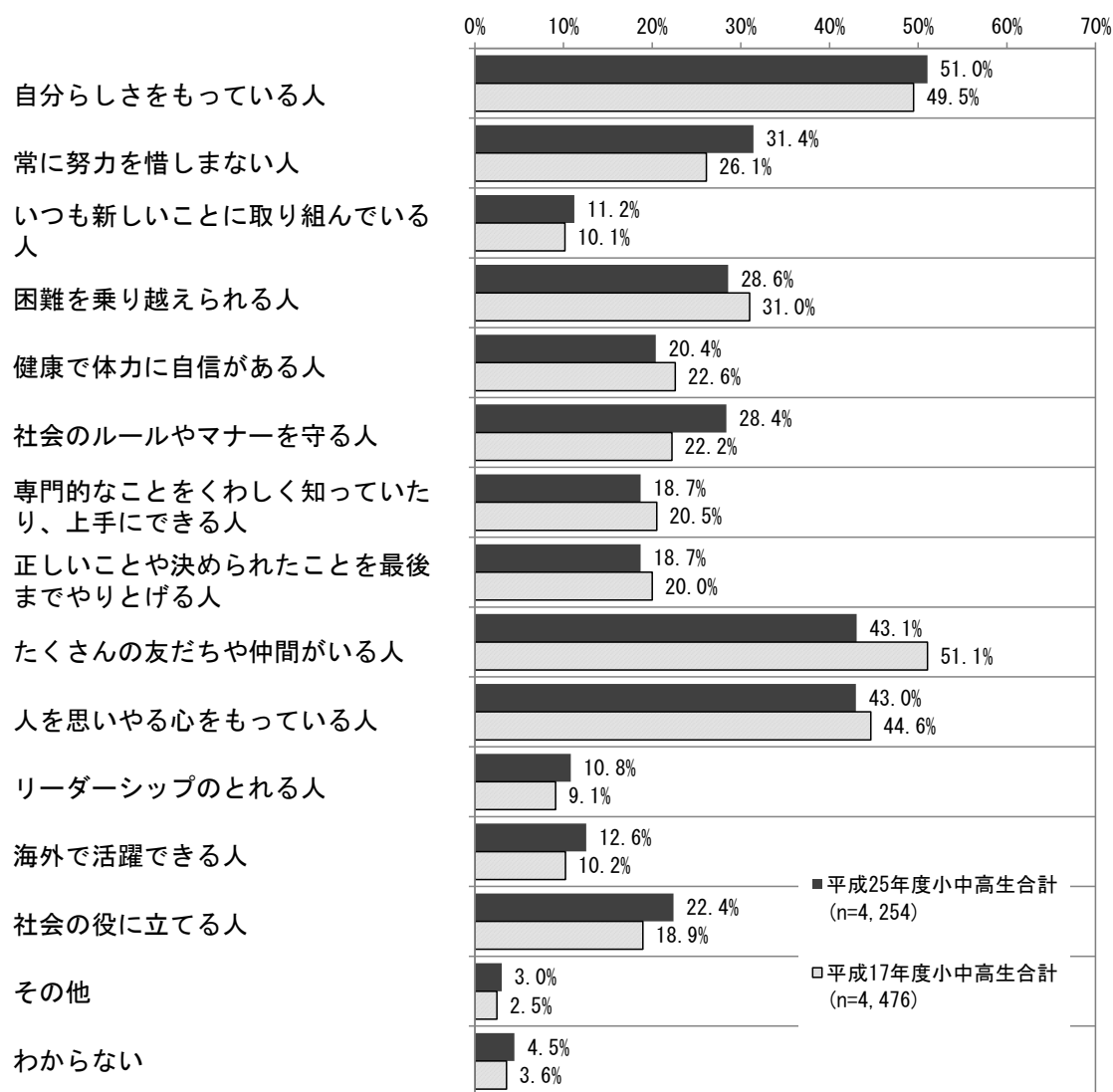


図 II-6 どのような大人になりたいか(小学生)

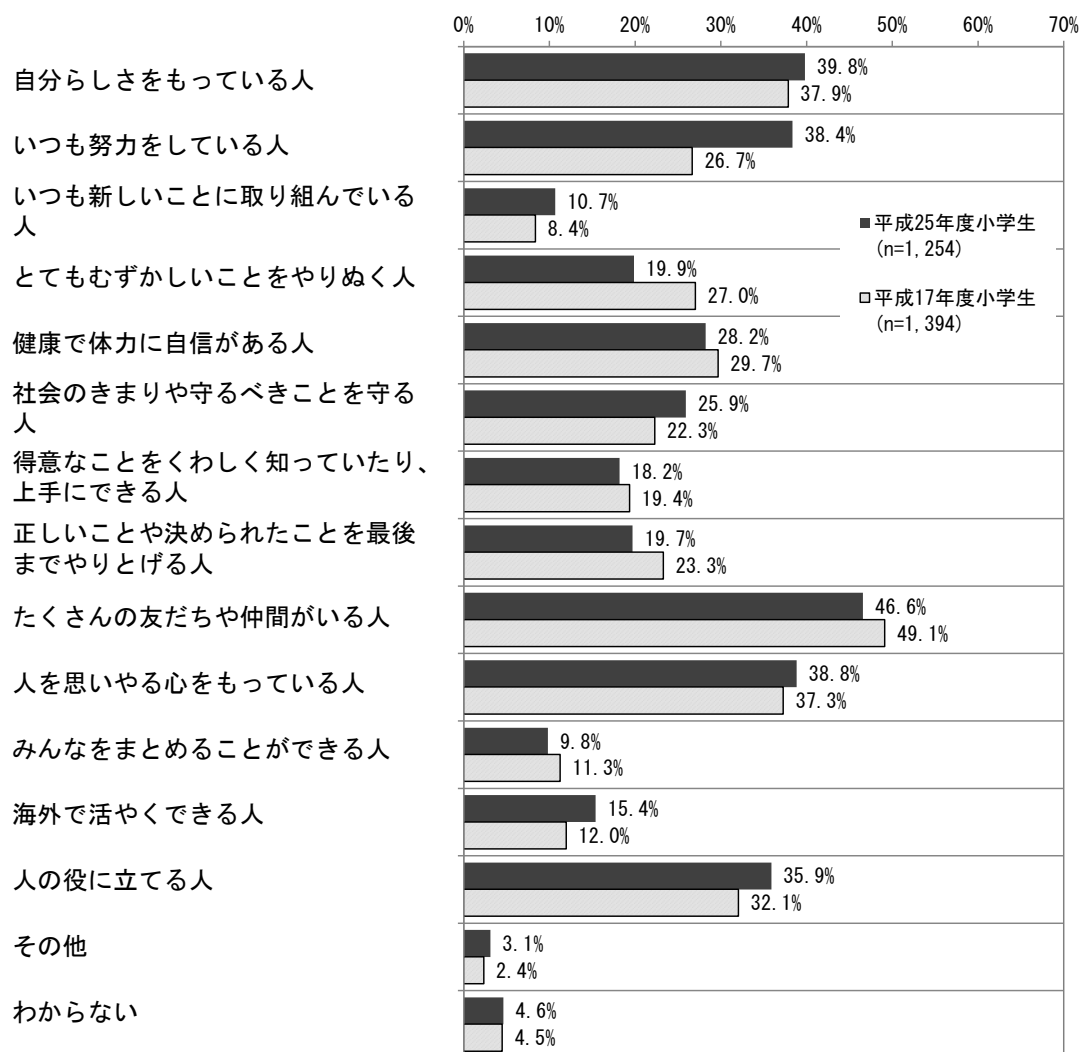




図 II-7 どのような大人になりたいか(中学生)

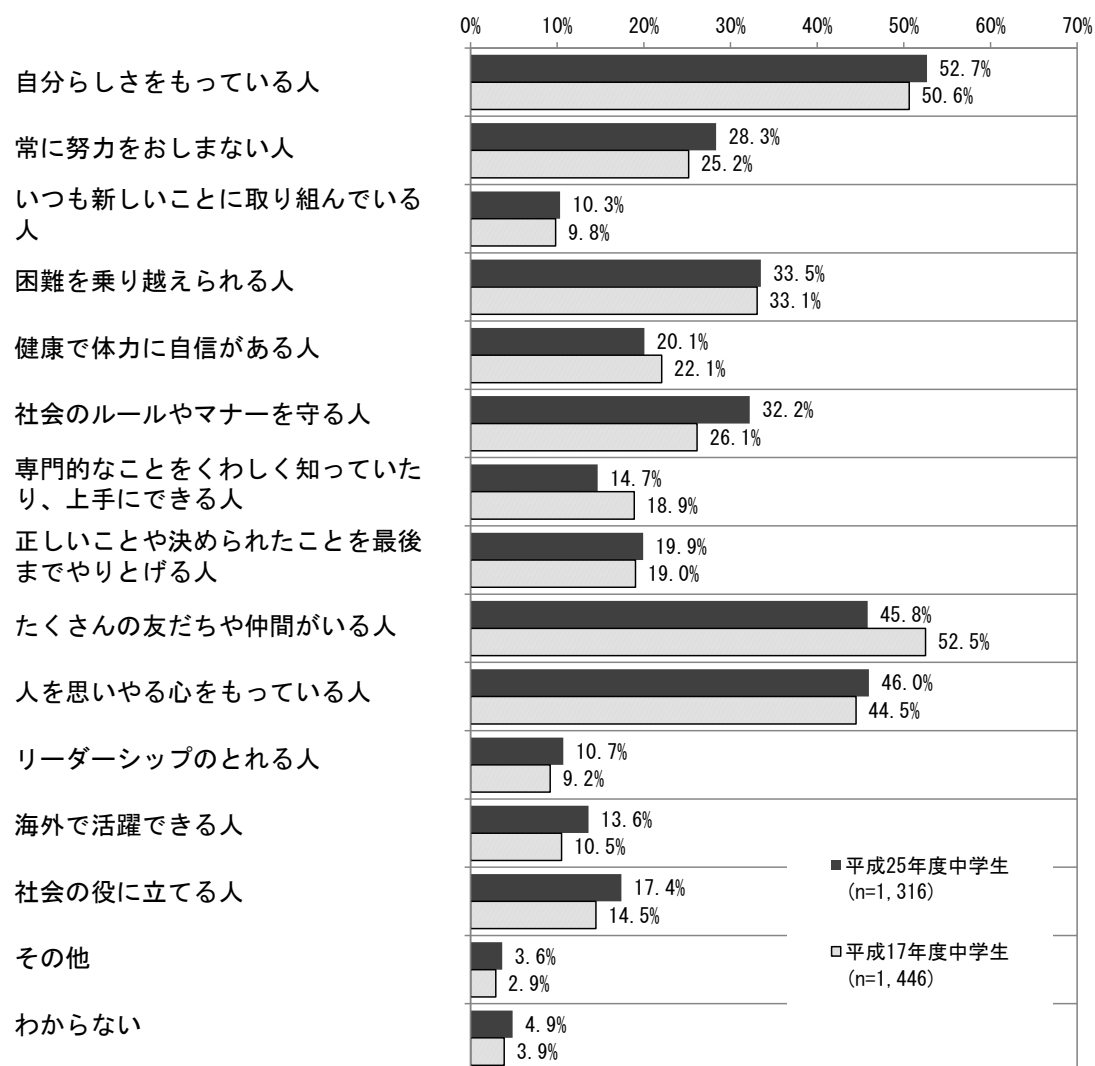


図 II-8 どのような大人になりたいか(高校生)

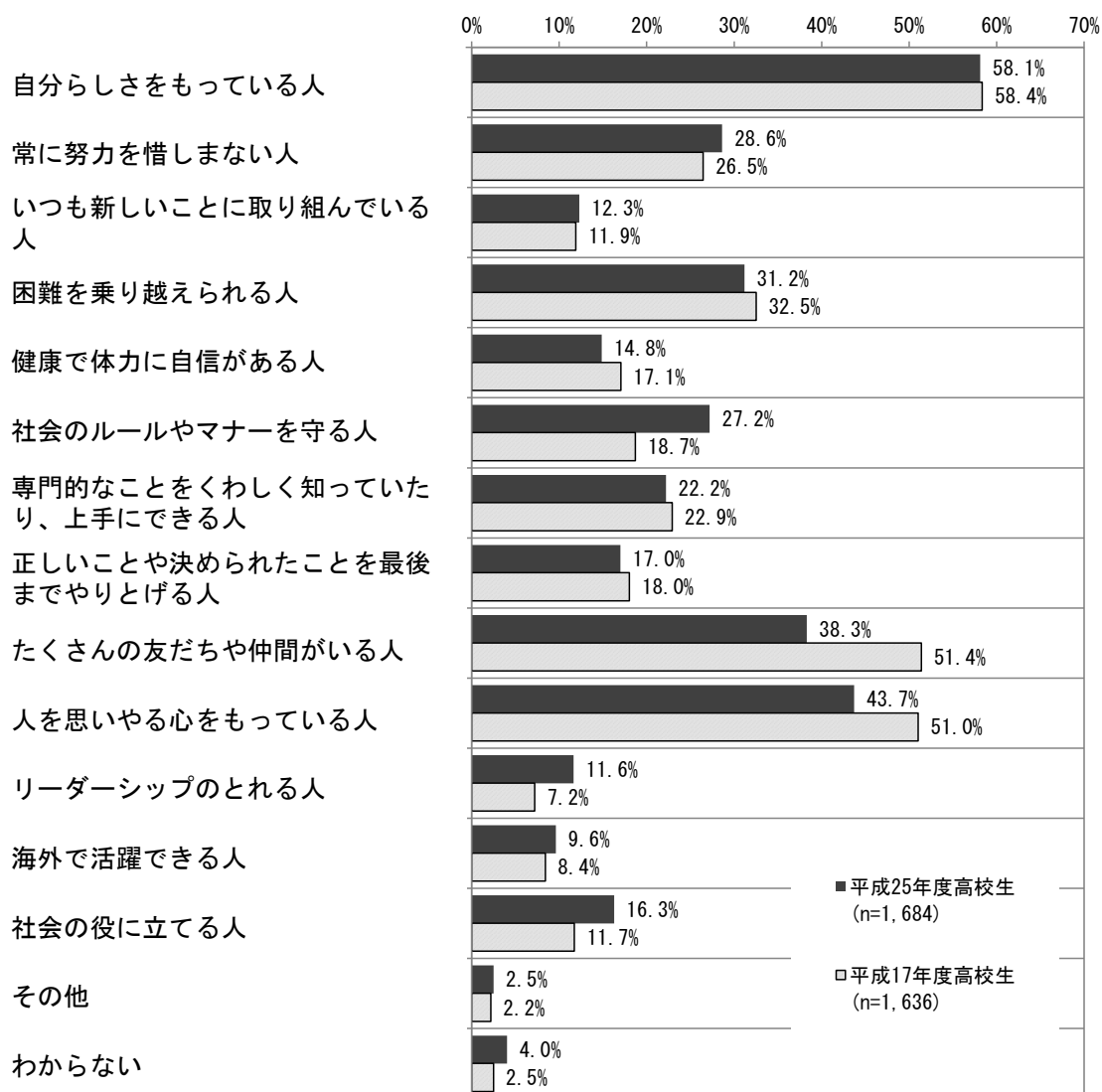
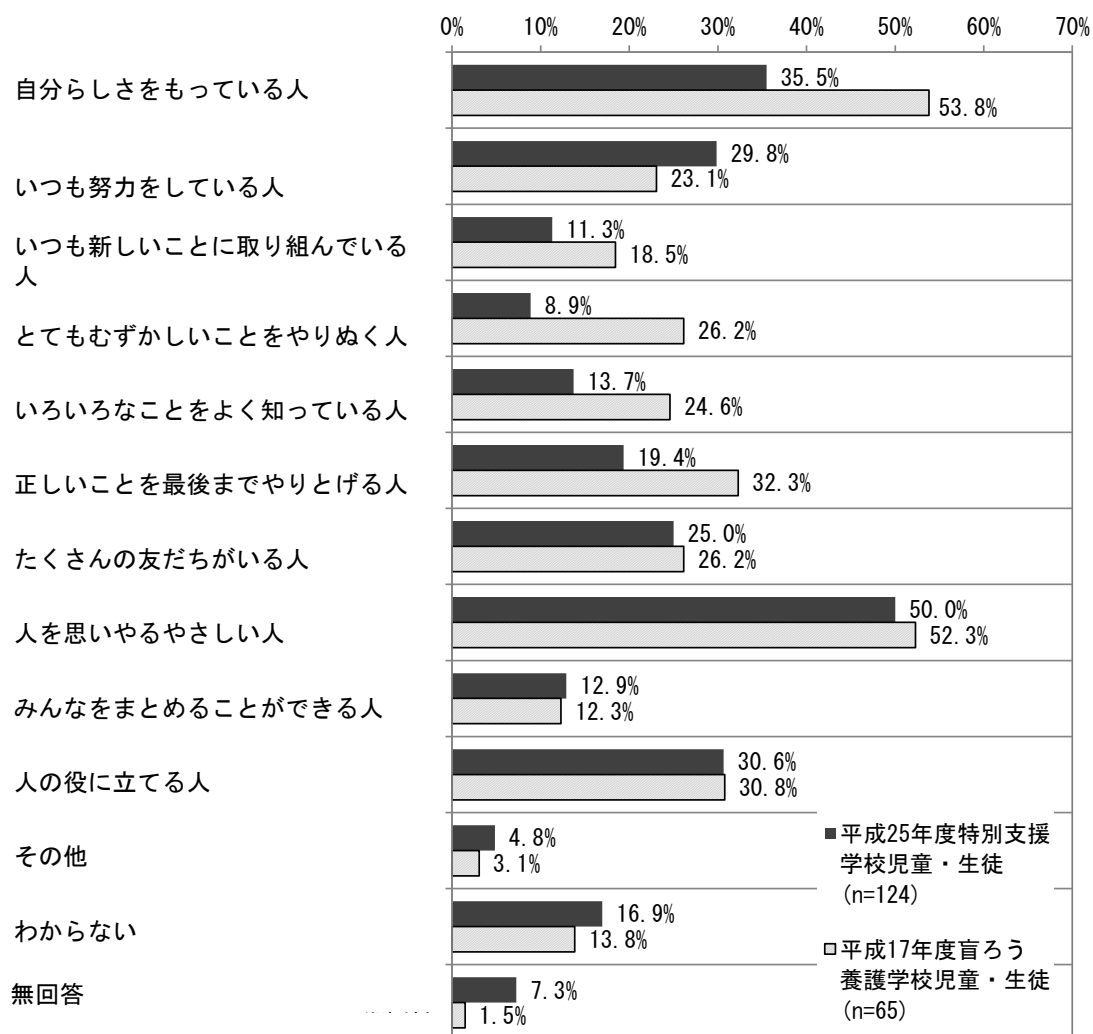


図 II-9 どのような大人になりたいか(特別支援学校児童・生徒)



※「とてもむずかしいことをやりぬく人」

・・・平成17年度調査「困難を乗り越えられる人」

## II-3 どのような大人になってほしいか

「どのような大人になってほしいか」を大人に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「人を思いやる心をもっている」、「困難を乗り越えることができる」、「社会のルールやマナーを守る」、保護者では「困難を乗り越えることができる」、「人を思いやる心をもっている」、「健康なからだや体力を備えている」の順であった。学校評議員及び一般県民では共に「人を思いやる心をもっている」、「社会のルールやマナーを守る」、「困難を乗り越えることができる」の順であった。

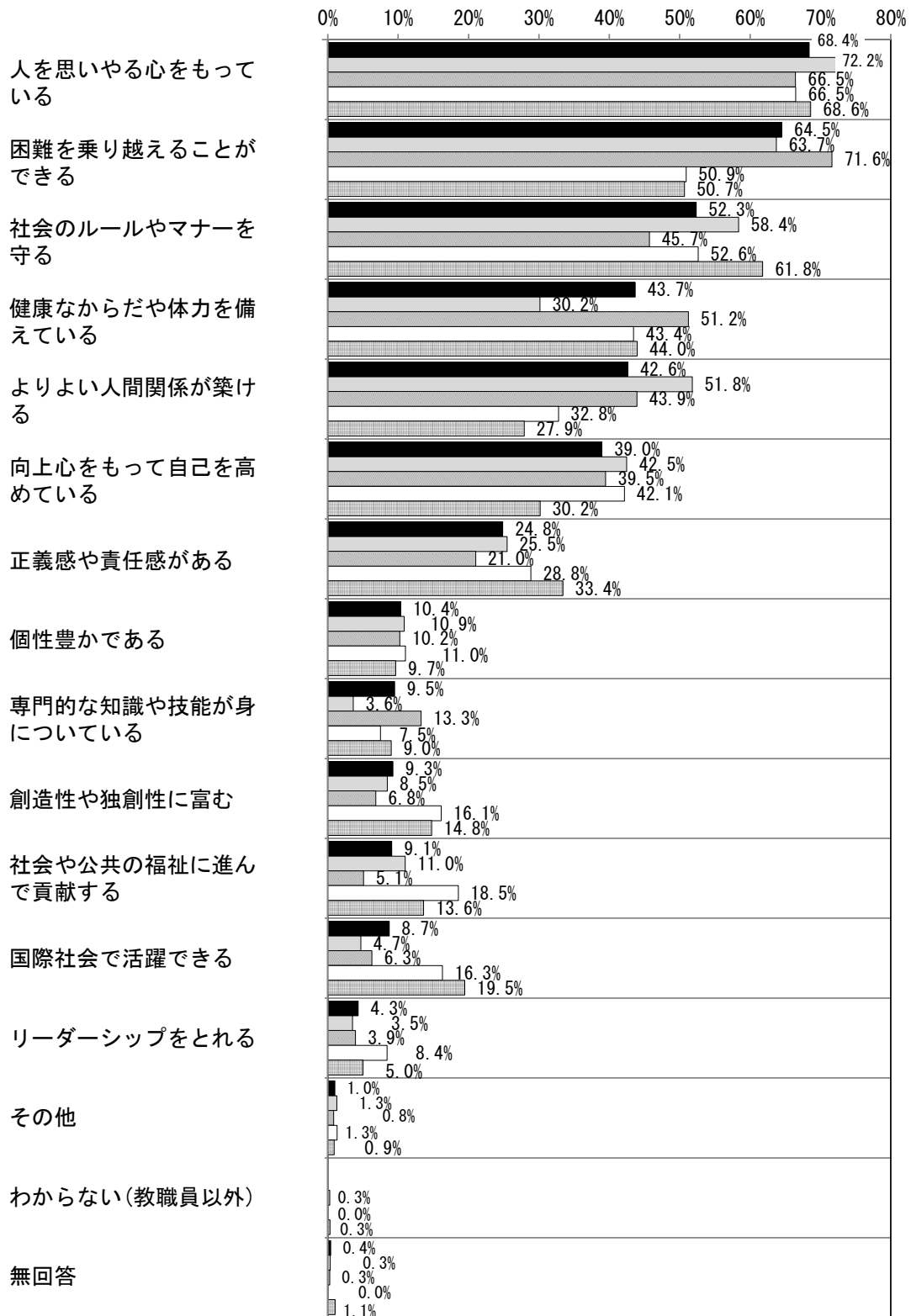
また、『どのような大人になってほしいか』について、回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、いずれの調査においても教職員と学校評議員では「人を思いやる心をもっている」との回答の割合が最も高く、平成25年度調査では教職員72.2%、学校評議員66.5%であり、平成17年度調査では教職員61.3%、学校評議員68.7%であった。保護者の回答はいずれの調査においても、「困難を乗り越えることができる」が最も高く、平成25年度調査では71.6%、平成17年度調査では67.5%であった。一般県民の回答は平成25年度調査では「人を思いやる心をもっている」(68.6%)であり、平成17年度調査では「社会のルールやマナーを守る」(69.6%)であった。

『どのような大人になってほしいか』を大人に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、教職員では「人を思いやる心をもっている」(72.2%)、「困難を乗り越えることができる」(63.7%)、「社会のルールやマナーを守る」(58.4%)であり、保護者では、「困難を乗り越えることができる」(71.6%)、「人を思いやる心をもっている」(66.5%)、「健康なからだや体力を備えている」(51.2%)であった。学校評議員及び一般県民では、「人を思いやる心をもっている」(学校評議員：66.5%、一般県民：68.6%)、「社会のルールやマナーを守る」(学校評議員：52.6%、一般県民：61.8%)、「困難を乗り越えることができる」(学校評議員：50.9%、一般県民：50.7%)の順であった。(表II-2、図II-10 参照)

表 II-2 どのような大人になってほしいか(上位5項目)

	教職員	保護者	学校評議員	一般県民
1位	人を思いやる心をもっている 72.2%	困難を乗り越えることができる 71.6%	人を思いやる心をもっている 66.5%	人を思いやる心をもっている 68.6%
2位	困難を乗り越えることができる 63.7%	人を思いやる心をもっている 66.5%	社会のルールやマナーを守る 52.6%	社会のルールやマナーを守る 61.8%
3位	社会のルールやマナーを守る 58.4%	健康なからだや体力を備えている 51.2%	困難を乗り越えることができる 50.9%	困難を乗り越えることができる 50.7%
4位	よりよい人間関係が築ける 51.8%	社会のルールやマナーを守る 45.7%	健康なからだや体力を備えている 43.4%	健康なからだや体力を備えている 44.0%
5位	向上心をもって自己を高めている 42.5%	よりよい人間関係が築ける 43.9%	向上心をもって自己を高めている 42.1%	正義感や責任感がある 33.4%

図 II-10 どのような大人になってほしいか(教職員、保護者、学校評議員、一般県民)



合計 (n=7,445)     
  教職員 (n=2,046)     
  保護者 (n=3,632)

学校評議員 (n=534)     
  一般県民 (n=1,233)

『どのような大人になってほしいか』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、教職員の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(72.2%)、「困難を乗り越えることができる」(63.7%)、「社会のルールやマナーを守る」(58.4%)であり、平成 17 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(61.3%)、「社会のルールやマナーを守る」(51.5%)、「困難を乗り越えることができる」(49.0%)であった。

保護者の回答は平成 25 年度調査では「困難を乗り越えることができる」(71.6%)、「人を思いやる心をもっている」(66.5%)、「健康なからだや体力を備えている」(51.2%)であり、平成 17 年度調査では「困難を乗り越えることができる」(67.5%)、「人を思いやる心をもっている」(66.7%)、「健康なからだや体力を備えている」(52.3%)であった。

学校評議員の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(66.5%)、「社会のルールやマナーを守る」(52.6%)、「困難を乗り越えることができる」(50.9%)であり、平成 17 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(68.7%)、「社会のルールやマナーを守る」(54.8%)、「健康なからだや体力を備えている」(46.2%)であった。

一般県民の回答は平成 25 年度調査では「人を思いやる心をもっている」(68.6%)、「社会のルールやマナーを守る」(61.8%)、「困難を乗り越えることができる」(50.7%)であり、平成 17 年度調査では「社会のルールやマナーを守る」(69.6%)、「人を思いやる心をもっている」(66.6%)、「健康なからだや体力を備えている」(44.7%)であった。(図Ⅱ-11～14 参照)

図 II-11 どのような大人になってほしいか(教職員)

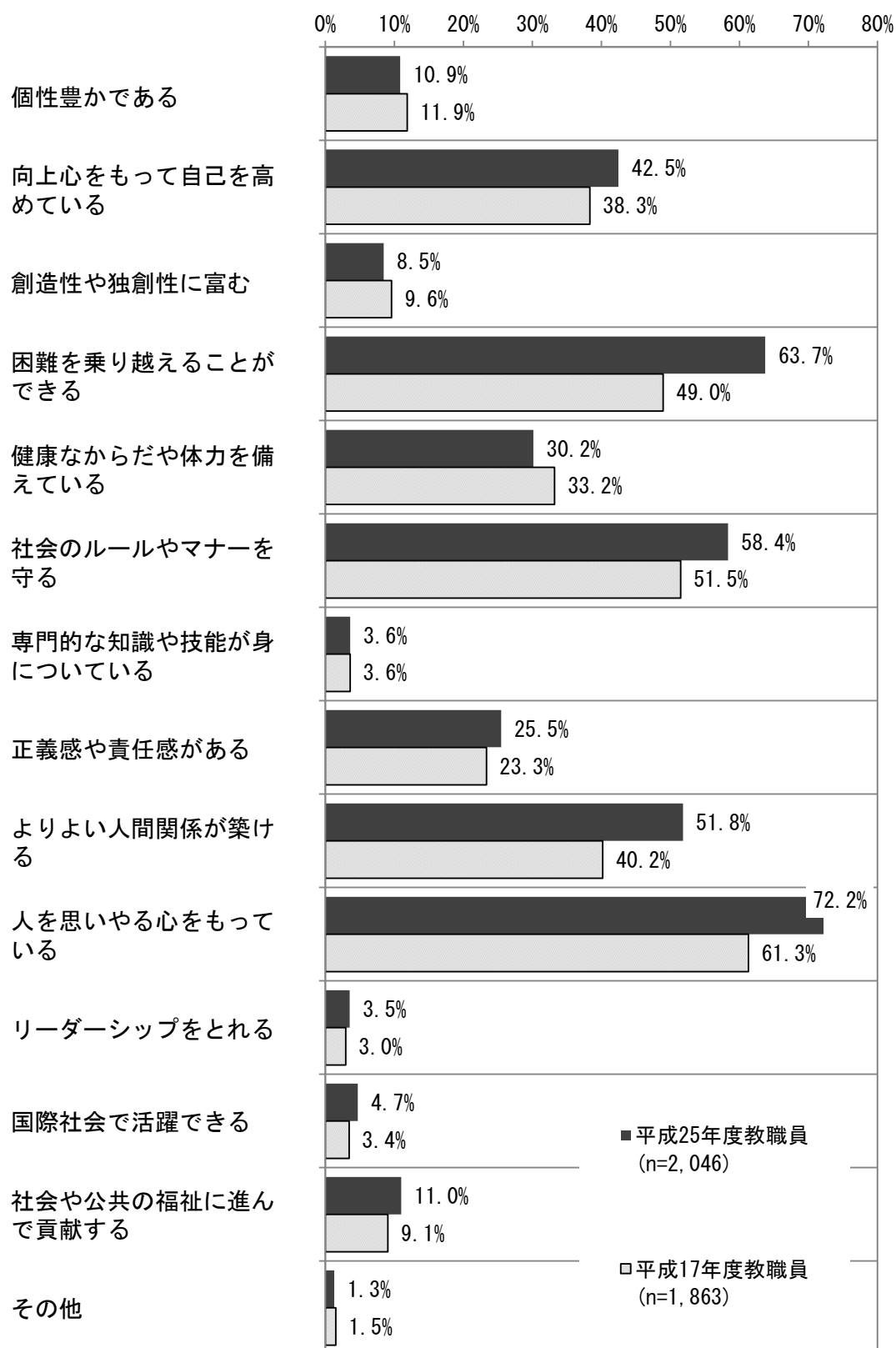


図 II-12 どのような大人になってほしいか(保護者)

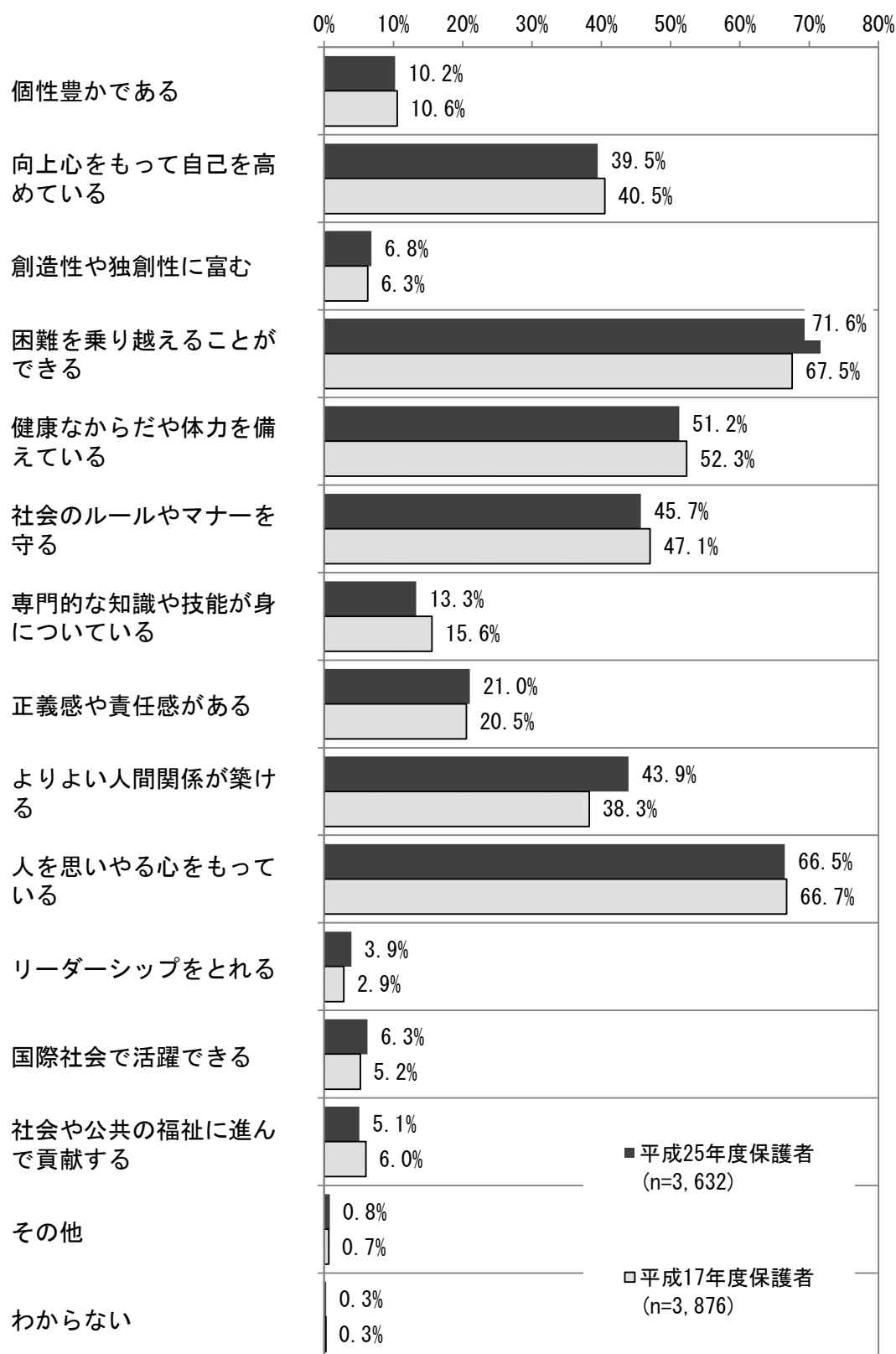




図 II-13 どのような大人になってほしいか(学校評議員)

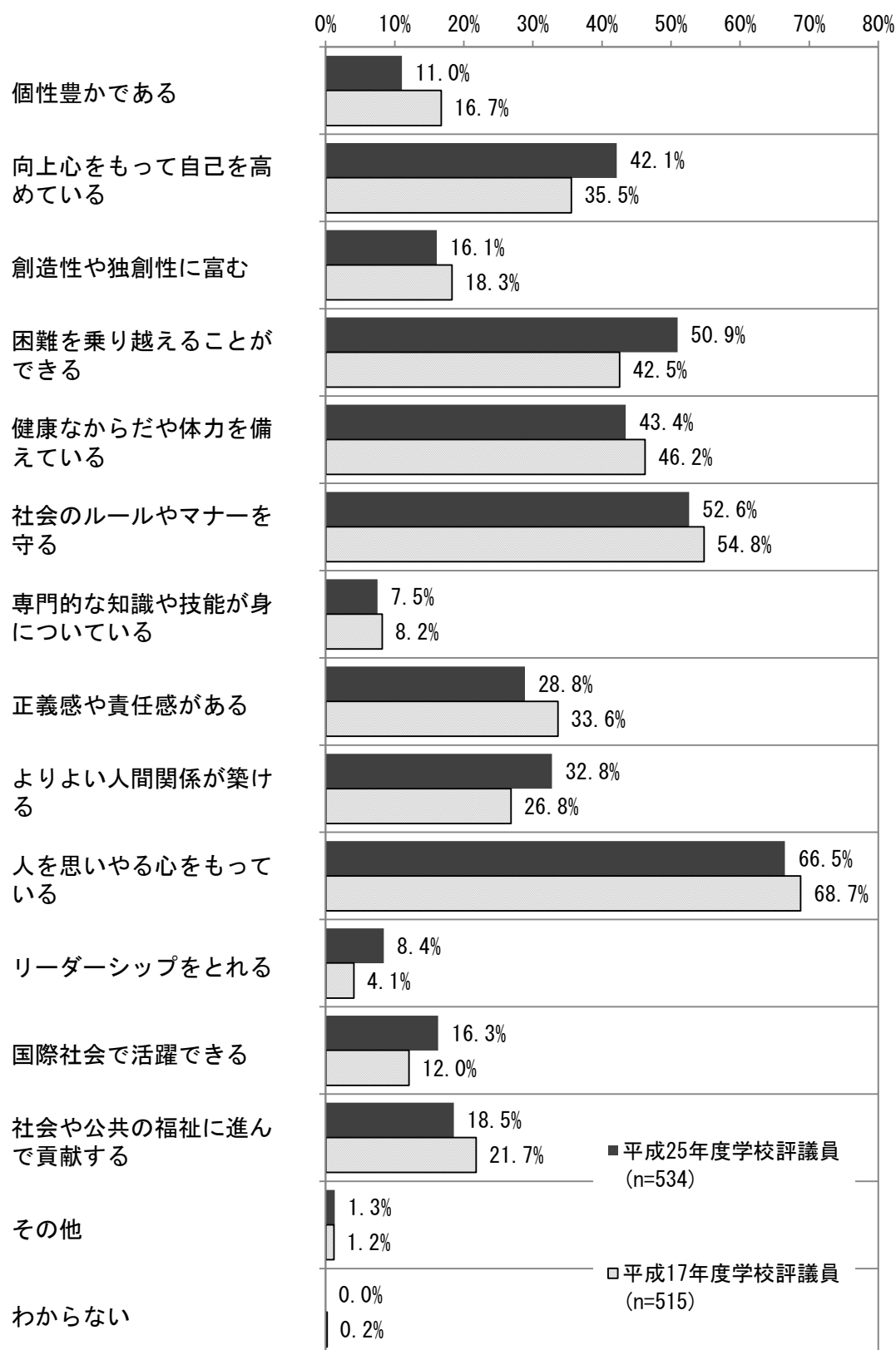
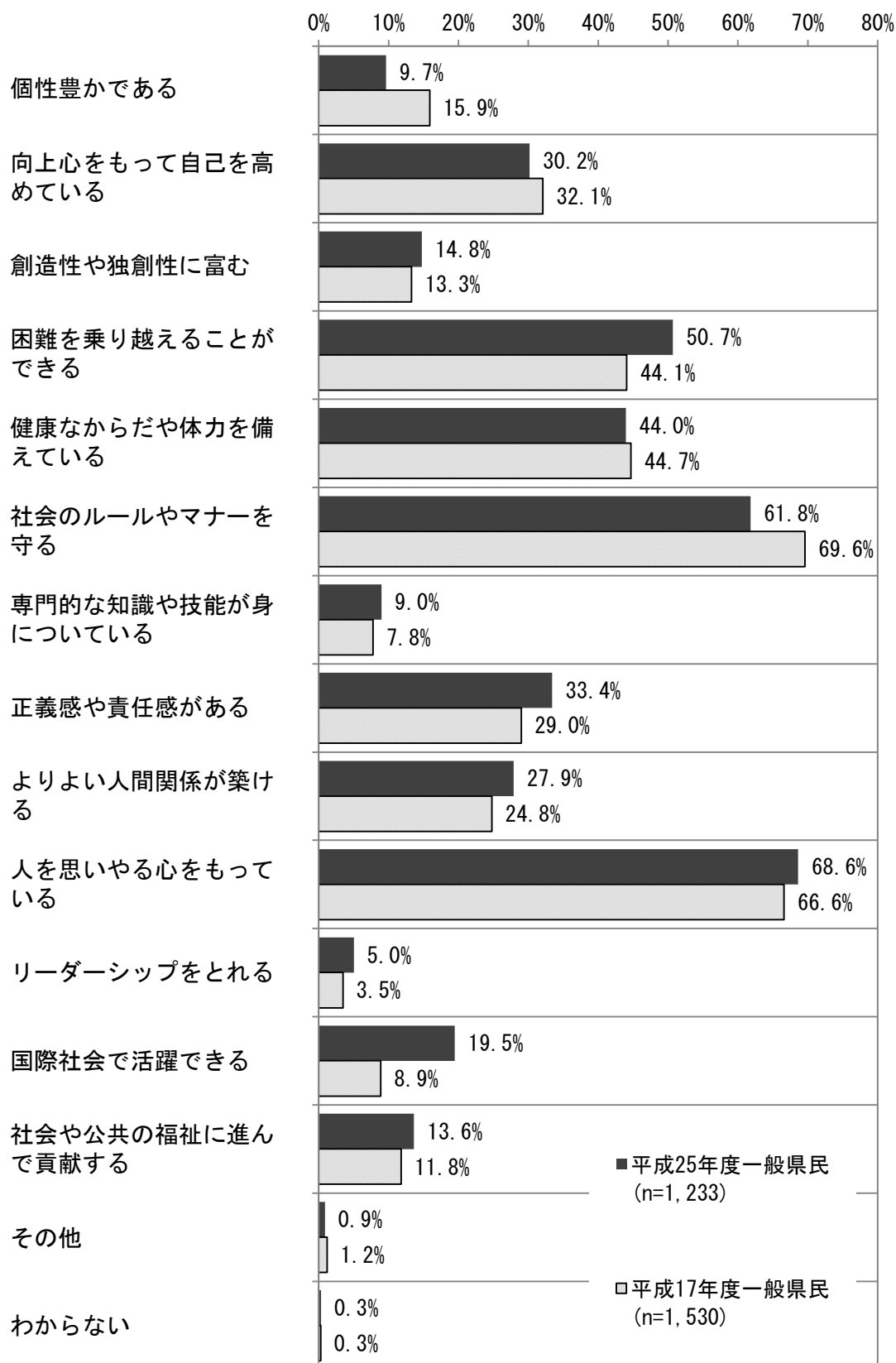


図 II-14 どのような大人になってほしいか(一般県民)



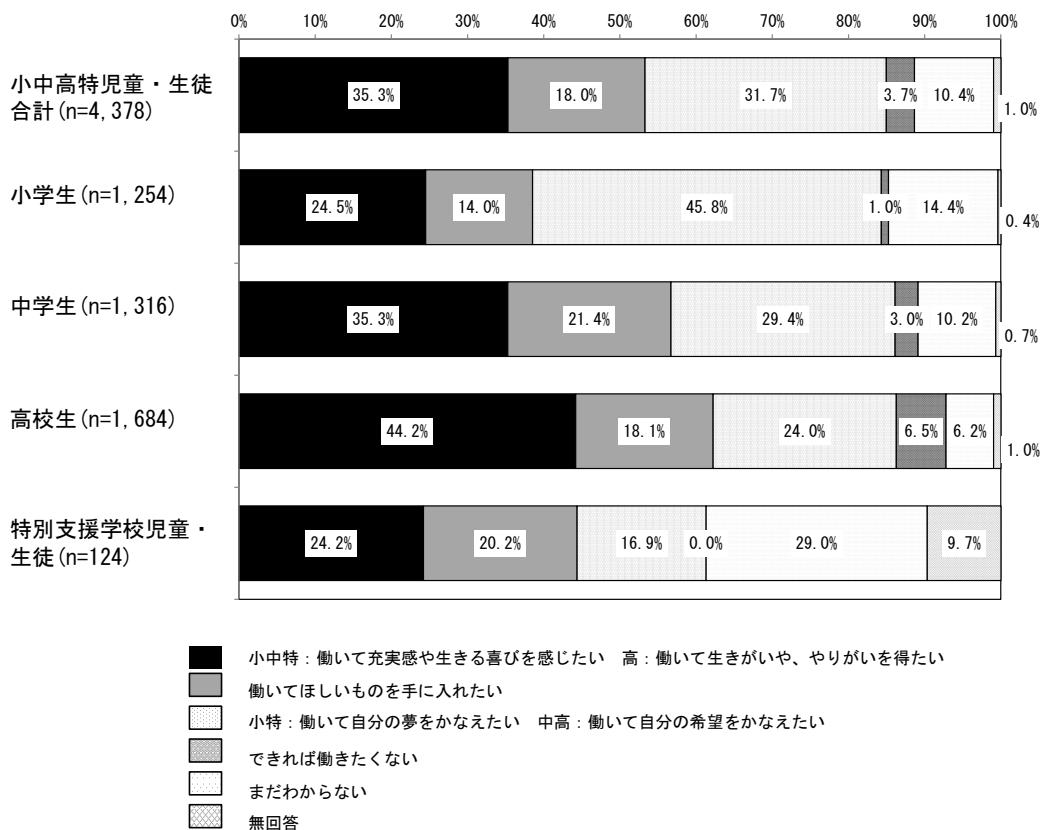
## II-4 働くことについて

「働くことについてどのように考えているか」を子どもに聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では順に「働いて自分の夢をかなえたい」、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」、中高生では「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」（高校生は「働いて生きがいや、やりがいを得たい）」、「働いて自分の希望をかなえたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」、であった。特別支援学校児童・生徒では「まだわからない」、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」、「働いてほしいものを手に入れたい」の順となっている。

回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答はいずれの調査においても「働いて自分のゆめをかなえたい」との回答が最も割合が高く、平成25年度調査では45.8%、平成17年度調査では52.5%であった。中学生の回答は、平成25年度調査では「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(35.3%)であり、平成17年度調査では「働いて自分の希望をかなえたい」(32.8%)であった。高校生の回答は、いずれの調査においても「働いて生きがいや、やりがいを得たい」が最も割合が高く、平成25年度調査では44.2%、平成17年度調査では46.8%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は、平成25年度調査では「まだわからない」(29.0%)であり、平成17年度調査では「働いて自分の夢をかなえたい」(41.5%)であった。

『働くことについて』を児童・生徒に聞いたところ、回答の割合が高かった項目は、小学生では「働いて自分の夢をかなえたい」(45.8%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(24.5%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(14.0%)であった。中学生では「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(35.3%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(29.4%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(21.4%)であり、高校生では「働いて生きがいや、やりがいを得たい」(44.2%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(24.0%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(18.1%)であった。特別支援学校児童・生徒では「まだわからない」(29.0%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(24.2%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(20.2%)の順となっている。(図II-15 参照)

図 II-15 働くことについて(小中高生、特別支援学校児童・生徒)



『働くことについて』について、回答の割合が高かった項目を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は、平成 25 年度調査では「働いて自分のゆめをかなえたい」(45.8%)、「働いてじゅう実感や生きるよろこびを感じたい」(24.5%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(14.0%)であり、平成 17 年度調査では「働いて自分のゆめをかなえたい」(52.5%)、「働いてじゅう実感や生きるよろこびを感じたい」(19.2%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(11.2%)であった。中学生の回答は、平成 25 年度調査では「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(35.3%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(29.4%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(21.4%)であり、平成 17 年度調査では「働いて自分の希望をかなえたい」(32.8%)、「働いて充実感や生きる喜びを感じたい」(31.3%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(19.5%)であった。高校生の回答は、平成 25 年度調査では「働いて生きがいや、やりがいを得たい」(44.2%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(24.0%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(18.1%)であり、平成 17 年度調査では「働いて生きがいや、やりがいを得たい」(46.8%)、「働いて自分の希望をかなえたい」(22.6%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(17.1%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は、平成 25 年度調査では「まだわからない」(29.0%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(24.2%)、「働いてほしいものを手に入れたい」(20.2%)であり、平成 17 年度調査では「働いて自分の夢をかなえたい」(41.5%)、「まだわからない」(21.5%)、「働いて充実感や生きるよろこびを感じたい」(20.0%)であった。(図 II-16~20 参照)

図 II-16 働くことについて(児童・生徒合計)

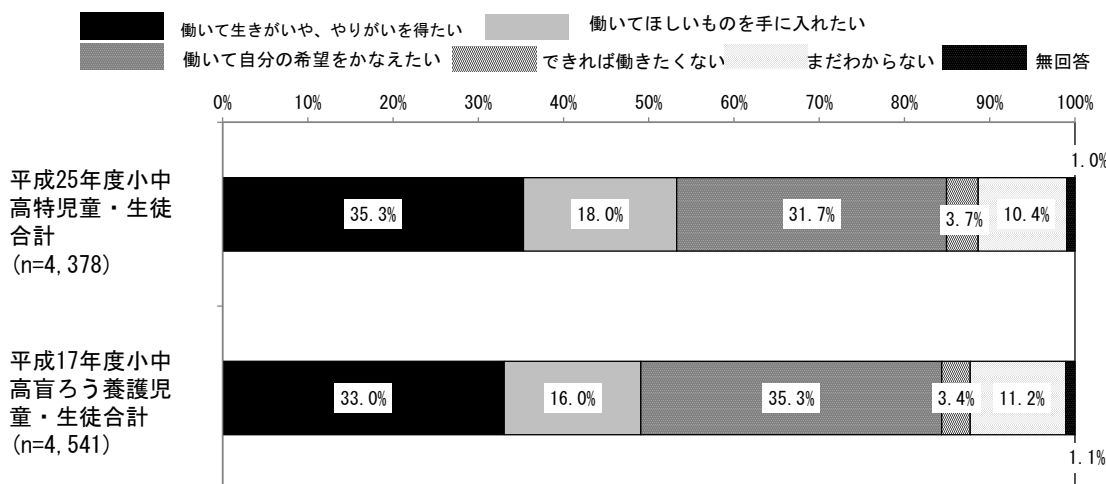


図 II-17 働くことについて(小学生)

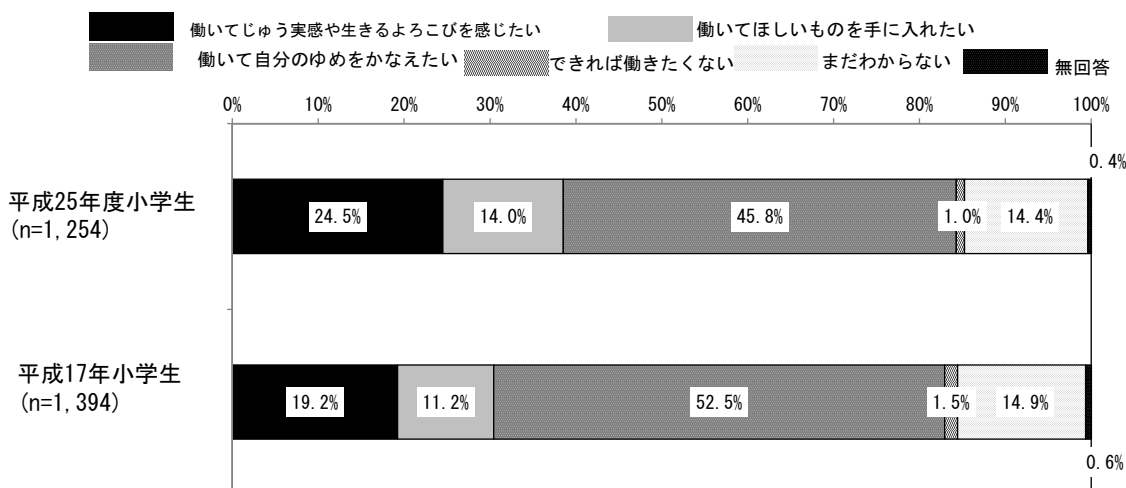


図 II-18 働くことについて(中学生)

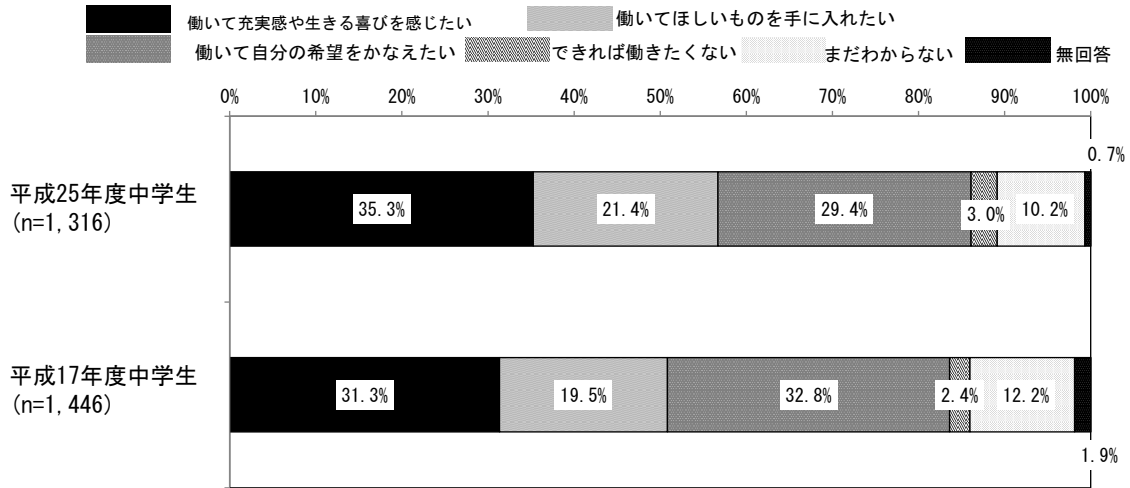


図 II-19 働くことについて(高校生)

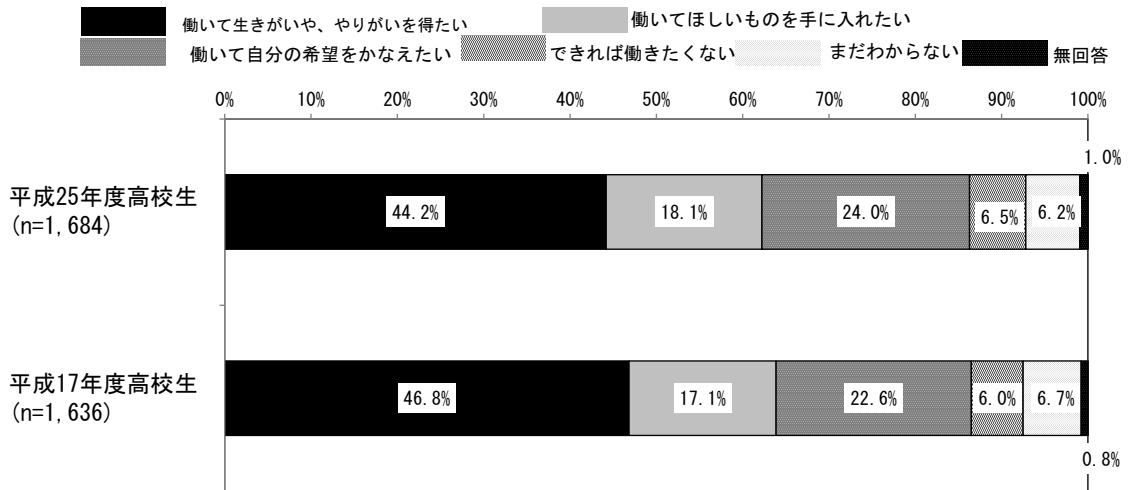


図 II-20 働くことについて(特別支援学校児童・生徒)

